

2014年1月27日

プレスリリース

合同会社土曜社

パリ・ロンドン・高円寺を駆けめぐる、坂口恭平 26歳の冒険日記

合同会社土曜社（東京・渋谷）は、坂口恭平（35）の26歳から32歳の日記を『坂口恭平のぼうけん』と題して出版します。2年がかりで、全7巻になります。

東日本大震災直後に著者は、熊本市にゼロセンターを設け、独立国家の初代内閣総理大臣を名乗り、「困った人がいれば助ける」という原則のもと、「公務」と称して各種の面倒ごとを背負いこみました（数万人の国民に課税もせず、昼夜を問わず直通電話を受け付けるなど、面倒見のよすぎる政府でした）。

疲労のせいか、やがて鬱にとらわれ、その間の様子は昨年、『坂口恭平躁鬱日記』（医学書院）として出版されました。

さて、うっぷんを晴らすかのように新刊『坂口恭平のぼうけん』では、「動」の坂口恭平が喜びいっぱい、ところ狭しとかけまわります。

0円ハウスから、製作費3万円のモバイルハウス、都市型狩猟採集生活、態度経済、0円生活圏まで、著者が歩き、学び、実践してきた日々です。

第一巻では、建築家の石山修武氏に学びながらも既存の建築になじめず、新宿のホテルのラウンジボーイという一見発展のないアルバイトで生活費を稼ぐ26歳の著者が、卒業論文の商業出版にこぎつけ、欧州へと活動を広げてゆくさまが、いきいきと描かれます。随所で音楽が鳴り、おいしそうな食事が出てきます。

また、日記を書くことで思考・文章の鍛錬を試みる若き日の著者の真摯な姿が全編にみなぎり、読み手の心に過ぎ去った青春の日々を思わせる懐かしい勉強の記録でもあります。

以上

シリーズ：傑作生活叢書（第1期・全7巻）

書名：坂口恭平のぼうけん 第一巻

著者：坂口恭平〈さかぐち・きょうへい〉1978年、熊本に生まれる。

建築家・作家・絵描き・踊り手・歌手。2001年、早稲田大学理工学部建築学科卒業。04年に処女作『0円ハウス』を発表。11年に新政府初代内閣総理大臣就任。

12年に弾き語りアルバム『Practice for a Revolution』を発表。13年には書き下ろし小説『幻年時代』、みずからの双極性障害を題材にした『坂口恭平躁鬱日記』を発表。

現在、新作小説を準備している。

目次：冒険のはじまり／恭平、パリに行く／恭平、直感する／恭平、研究する／恭平、営業する／恭平、再び欧州へ／恭平、歩く／二〇〇四年までの僕

新書変型・288頁 第一巻は、2014年2月28日発売予定（以後季刊）

ISBN978-4-907511-06-7 予価 952円＋税



取材、見本・画像データのご用命は、下記担当者が承ります。

合同会社土曜社 | 150-0033 東京都渋谷区猿楽町 11-20-305 | www.doyosha.com

担当・豊田剛 | tsuyoshi.toyota@doyosha.com | t. 050-3633-1367 | f. 03-6369-3339